

第4章 協働プロジェクト

環境問題に取り組むためには、環境保全活動への関心や参加意欲の向上、環境保全活動を担う人材や組織の発掘・育成などが求められます。こうしたことから、第2次環境基本計画の中で市民・事業者と市が協働して取り組む「協働プロジェクト」を位置づけています。

「望ましい環境像」の実現に向けて協働プロジェクトを推進することにより、環境問題への関心の拡大、環境活動への参加拡大、地域コミュニティの活性化、町会・自治会と環境保全活動団体の連携拡大を図ります。

協働プロジェクトの評価は、市で把握できる市民・事業者との協働による活動実績（評価指標として参加者数、活動箇所数や参加世帯数など）及び活動状況などについて把握し、5つのプロジェクトごとに結果をとりまとめ評価します。

第1節 里山復活プロジェクト

私たちの生活の身近な場所にある里山・谷戸や斜面緑地など、貴重なみどりの機能を回復することが重要です。地下水かん養や生物多様性の保全など、みどりや水辺の持つ多面的機能の回復をめざします。

	令和2年度実績
評価指標	里山保全の担い手育成（受講者 20 人 前年比 5 人増） 「上川の里」特別緑地保全地区整備（活動箇所 1、参加者延べ 455 人 前年比 275 人減） 公園アドプト制度（活動箇所 20、登録者 1,273 人 前年比 117 人減）

<庁内環境調整委員会での総括評価>

里山復活プロジェクトに該当すると考えられる事業を環境政策課、環境保全課、公園課の3所管において行っている。各事業とも地域の自然環境を活かした環境教育・環境学習の場として活用している。新型コロナウイルスの影響による活動の自粛や活動者の高齢化に伴い活動を終了した団体の増加により参加者数が減っている。

<今後の展開>

市民・事業者・市が協働し、環境教育・環境学習の場として活用していくとともに里山等の保全について啓発を行う。また、アドプト制度については市民だけでなく、企業にも向けて推進する。

<環境推進会議の意見>

多くの里山で活動が行われており、環境学習の場所としても活用している。里山風景を保存している公園については特に、里山生態系が悪化することのないよう、専門家の意見を求めながら継続的に指導する体制をお願いしたい。



第2節 生ごみ資源化促進プロジェクト

「循環型都市八王子」の実現には、一層のごみの減量・資源化が重要です。生ごみの減量・資源化のため、地域の特性に応じた生ごみの地域循環を促進します。

	令和2年度実績
評価指標	ダンボールコンポスト講習会（参加者 367 人 前年比 79 人減） コンポスター、密閉式容器による生ごみ資源化講習会（参加者 10 人 前年比 19 人減） 生ごみ減量化処理機器等の購入費補助個数（932 個 前年比 36 個増）

<市内環境調整委員会での総括評価>

各家庭へ生ごみの資源化を普及するため、ダンボールコンポストをはじめとする生ごみの資源化手法を、八王子市生ごみリサイクルリーダーが講師となって、講習会を実施している。新型コロナウイルスの影響により、講習会を実施できない期間や、受講者数を制限して講習会を実施したため参加者数が減となった。

<今後の展開>

新型コロナウイルス感染症対策を徹底して講習会を実施するとともに、地域特性に応じた取組を進めるため、各地区に生ごみリサイクルリーダーが配置できるように生ごみリサイクルリーダーを養成していく。

<環境推進会議の意見>

地域で簡単に取り組めるダンボールコンポストは、生ごみを資源化する大事なツールのひとつである。今後、当初の目標に対して現状がどのように進行しているのかを把握し、見直し等を含め取り組むとよい。



第3節 省エネ応援プロジェクト

地球温暖化を防止するためには、一人ひとりがCO₂排出量の削減に取り組んでいくことが重要です。家庭や職場、地域などで省エネ知識を高め、簡単に継続的に取り組める省エネ行動を応援します。

	令和2年度実績
評価指標	家庭における省エネの推進（はちおうじ省エネ国の会員 4,170 世帯 前年比 49 世帯減） はちおうじ省エネ国と八王子市エコアクションポイント制度を統合（会員：4,822 世帯）

<庁内環境調整委員会での総括評価>

地球温暖化防止活動推進員が講師を務める講座やイベントを通じて省エネに関する知識の普及啓発を図った。

<今後の展開>

はちおうじ省エネ国とはちエコポイントの会員を統合したことにより、市民にとってわかりやすく、取り組みやすくなった。引き続き会員のポイント獲得行動を促進し、継続的に省エネ行動を実施する世帯を増やす。また、地球温暖化防止活動推進員の地域での活動の幅を広げ、市域全体に展開していく。

<環境推進会議の意見>

引き続き同じ方策を続けるのではなく、目標を達成するために正しく状況を把握し、計画を立て直すことが必要である。省エネ国の会員を増やすため、新たな方策を打ち出し、全市に広がるような取組となるよう努めてほしい。



第4節 環境教育サポートプロジェクト

環境問題を解決していくためには、一人ひとりが問題を認識・理解し、行動することが重要です。小・中学校における総合的な学習の時間などを活用し、学校での環境教育を支援します。

	令和2年度実績
評価指標	環境教育支援事業（実施17校 授業を受けた児童・生徒延べ1,235人 前年比1,179人減） 八王子浅川水辺の楽校事業（中止） 八王子市小学校科学教育センター事業（中止） 自然観察会（参加者32人 前年比67人減） 北野環境教育・学習拠点づくり（中止）

<庁内環境調整委員会での総括評価>

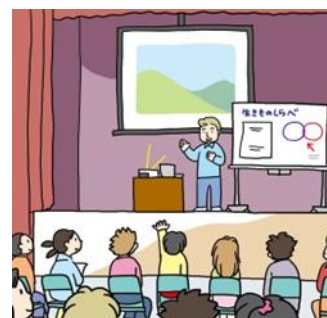
体験型の事業のため、新型コロナウイルスの影響で中止や参加人数の制限などにより大幅な参加人数の減となった。小学校科学教育センター事業では、児童向けの講座は中止となったが、自宅学習用の生き物観察キットの配布など、新しい取組を実施した。

<今後の展開>

新型コロナウイルス感染症対策を徹底して実施するとともに、小・中学生に環境学習を行うことで環境意識の向上を図る。

<環境推進会議の意見>

小・中学生への環境教育は非常に重要な取組であるため、環境教育プログラムガイドブックを活用するとともに、引き続き各所管が連携を図り、市民・事業者・市の協働により環境教育を進めてほしい。



第5節 地域の環境美化プロジェクト

まちの美化を進めるためには、モラルやマナーを守り、都市の美観を保持することが重要です。市民・事業者が、清潔できれいな地域の環境づくりに取り組めるよう支援します。

	令和2年度実績
評価指標	道路アドプト制度（活動団体数 64 前年に同じ）
	公園アドプト制度（登録者 18,994 人 前年比 171 人減）
	水辺の水護り制度（登録者 464 人 前年比 16 人増）
	落書き消去活動（参加者延べ 11 人 前年比 25 人減）
	生活安全パトロール（参加者延べ約 250 人 前年比 250 人減）
	地域安全運動（子どもの見守り活動と清掃活動）（参加者 10 人 令和2年度より開始）
	違反屋外広告物除去活動（参加者延べ 219 人 前年比 42 人増）
	市民緑化支援事業（協力 17 団体 前年比 2 団体減）
	花づくり事業（会員 60 人 前年に同じ）
	戸吹清掃美化委員会（参加者延べ 128 人 前年比 64 人減）
	慰霊塔清掃（参加者延べ 152 人 前年比 25 人増）
	老人ホーム跡地美化（参加者延べ 384 人 前年比 866 人減）
	みんなの町の清掃デー、みんなの川の清掃デー、秋の町の清掃デー（中止）
	生涯学習センター植栽ボランティア（参加者 204 人 前年比 194 人減）

<市内環境調整委員会での総括評価>

まちの美化を進めるために10所管で14事業行っている。新型コロナウイルスの影響により中止や活動自粛となっているものの、新規事業として、子どもの見守り活動と清掃活動を行う地域安全運動を開始することができた。

<今後の展開>

新たに地域モデル花壇支援事業として市内6か所の花壇を支援する事業を展開する。

<環境推進会議の意見>

新型コロナウイルスの影響により、参加者が減少しているが、市民ボランティアが継続して美化活動に努めていることは評価できる。新たな事業の展開もあり、今後も地域の環境づくりに取り組めるよう支援してほしい。

